

第3学年1組 国語科学習指導案

令和3年7月1日(木)5校時
指導者 竹内 由美

1. 単元名(教材名) 「絵を見て、世界に一つだけのそう作話を書こう」

2. 単元目標

一枚の絵から場面の様子を想像して話を創ることに興味をもち、人物の行動や会話、気持ちへと想像を広げて筋道の通った話を書くことができる。また、書いたものを読み合い、良いところを見つけて感想を伝え合うことができる。

3. 単元計画(全2時間)

第1時 一枚の絵から場面の様子を想像し人物の行動や会話を考えて創作話を書く。(本時)
第2時 書いたものを読み合い、感想を伝え合うことができる。

4. ICT活用の分類

ICT機器	タブレット端末、タッチペン
アプリ	ロイロノート
機能	送る、テキスト、提出、比較
活用場面	創作話を書く、創作話の共有・比較・検討

5. 本時におけるICT活用による学びの「しやすさ」とは

本時の学習では、一枚の絵から場面の様子を想像して話を書くことに興味をもち短い創作話を書く。このことを通して、相手や目的を意識して想像したことから書くことを選定して伝えたいことを明確にすること、書く内容の中心を明確にして内容のまとまりを意識しながら文章の構成を考えること、自分が想像した人物の行動や会話、気持ちを明確にして書き表し方を工夫することを身に付けさせたい。

そこで、ICT活用による学びの「しやすさ」として、ロイロノートを利用することで、その即時性と双方向性による、共有、比較、検討の「しやすさ」をねらいとしていく。

まず、個々のタブレットに一枚の絵を送る。手元で絵を見ることで、想像を広げやすくなる。大型ディスプレイでも絵を拡大・縮小することで絵の中に様々な場面があることに気付かせ、複数の場面の中から書きたい場面を選ぶようにさせる。そして、設定「いつ」「どこで」「だれが」「何をした」を各自自由に考えさせたい。

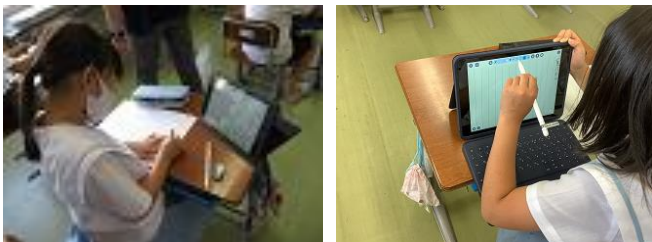
次に、各自が考えた想像を基にして創作話をテキストにタッチペンで書く。各自が書いた創作話を提出箱に送り、全体共有する。各自の作品を即時に共有することができ、友達の作品を自分の作品と比較しながら読み合うことができる。全体共有することで、それぞれの作品の違いや共通点を見つけていくことが可能となる。そして、全体で気付いたことを意見交流することで、考えの形成を促したい。その際、取り上げた作品を拡大提示したり、比較機能を使って提示したりすることで、個の意見が全体へ伝わりやすくなり、全体共有がよりスムーズになると考える。

そうして、全体共有を踏まえて再度加筆・修正に取り組ませたい。意見交流前と意見交流後の作品をタブレット上で比較することで学びの成長を実感することができ、次の学びへの意欲にもつながっていくと考える。

6. 本時目標

一枚の絵から場面の様子を想像して設定を考えたり人物の行動や会話を工夫したりすることを通して、創作話を書くことができる。(思考力・判断力・表現力等)

7. 本時の展開

学習活動 ○発問 ・予想される子供の反応	指導上の留意点と評価 ☆ICT活用について◎指導上の留意点 評：評価
1. 本時のめあてを確認する。	◎一枚の絵を提示し、絵から想像を膨らませて創作話を書くことを伝え、本時のめあてをつかませる
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 絵を見て自由にそうぞうし、そう作話を書こう。 </div>	
2. 絵を見て想像を広げる。 ○この絵にはどんな場面があるか。 ・ダンスをしている。 ・砂遊びをしている。 ○それぞれの場面で「時」「場所」「人物」「したこと」を考えよう。 ・昼食の後、砂浜で、健は、西瓜割りをした。 ・日曜日、海で、さきは、泳いだ。 3. 想像した設定を基に、創作話を書く。 ○決めた設定を基に創作話を書こう。 ・書き始めはどうしたらいいかな。 ・「すいせんのラップ」の書き始めを参考にしよう。 4. 全体共有する。 ○みんなで読み合おう。 ○見つけた工夫や気に入った作品を伝えよう。 ・会話文があると読みやすい。 ○友達の作品を読んで、どんなことを自分の作品にも取り入れたいと思ったか。 ・つなぎ言葉を入れたい。 ・人物に名前を付けたい。 5. 創作話を加筆・修正する。 6. 本時の学習を振り返り、次時につなげる。	◎絵を拡大・縮小しながら提示して発想を促し、自由に発言させたい。 ☆絵を各自のタブレットに送り、手元でも見えるようにするとともに、絵の一部分だけを表示できるようにする。 ◎話の書き方で大切なことを想起させ、既習事項の「時」「場所」「人物」「したこと」に触れる。 ◎自由に想像して設定を考えればよいが、人を傷つけることがないように伝える。 ◎教師が別の絵を見て書いた創作話を提示することで、縦書きにすることや大体の文量を伝えるとともに、ゴールをイメージさせる。 ◎教師の創作話を子供たちのタブレットに送り、必要に応じて見られるようにする。 ☆ロイロノートのテキストを活用し、タッチペンで創作話を書く。 ☆各自が書いた創作話をロイロノートで共有して読み合い、気に入った作品を伝え合う。 ◎人物の行動や会話、人物の気持ちなどの工夫があるとお話が面白くなることに気付かせたい。  ☆各自データをPDF化し、赤字で加筆・修正する。 評：絵から想像した設定を基に、人物の行動や会話を工夫して、創作話を書くことができたか。(作成データ、観察) ◎本時の学習を振り返り、次時は創作話を完成させて読み合うことを伝える。

